

わんちゃん・ねこちゃんも熱中症に注意！！
 これからの暑い時期に多くなるのは熱中症です
 わんちゃん・ねこちゃんの熱中症を防ぐには
 どのようなことに注意すればいいのでしょうか？

『 熱中症 』

☆熱中症を起こしやすい状況

高温多湿の場所に長時間いた場合に起こりやすくなります

締め切った部屋や車の中での留守番
 炎天下で日陰がなく直射日光を浴びながら屋外で長時間過ごす
 日中や夕方（まだアスファルトが熱い間）の運動やお散歩 …など



☆熱中症の予防

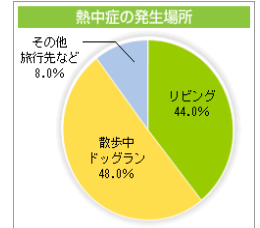
部屋ではエアコンを利用する

車に放置しない…買い物の間少しだけ。。でも大変危険です！絶対にやめましょう

クール素材のTシャツやマットを使う…噛みぐせがある子は注意が必要。また、アルミタイプのマットは屋外だと熱くなるので使用しない

運動やお散歩は日が昇る前か夕方以降の涼しい時間帯に

いつでも水が飲めるようにしておく…外出時、お散歩中の水分補給も忘れずに！



☆こんな子は特に注意!!

短頭種（パグ・フレンチブル・シーズーなど） → 上気道が短く呼吸によって熱を体外へ放出しにくい

太っている → 皮下脂肪が断熱材となり体に熱がこもりやすい

仔犬・高齢犬（猫） → 体温調節が上手くできない場合がある（外飼いの高齢犬は涼しい室内で生活させるのがベスト）

心臓や呼吸器が弱い → 循環器や呼吸器の病気を患っている子は、それらの機能が上手くできない場合があり体温調節が難しく熱中症になりやすい傾向があります

毛色が黒い → 体に熱をため込みやすい

熱中症になってしまったら

【主な症状】

触ると熱い
 息苦しそうにハアハアする
 よだれが出る
 下痢・嘔吐 など

【さらに悪化すると】

チアノーゼ
 意識混濁・失神
 血便・鼻血などの出血症状
 痙攣 などが起こり命に関わることも少なくありません



《応急処置》

涼しい場所に移動する

体を冷やす → 保冷剤など脇、内またの付け根に当てる・体全体に水をかける

意識があり水が飲める状態であれば水分補給をする → 水か、スポーツドリンクがあれば水で2~3倍くらいに薄めたものを飲ませてよい

△意識がない場合は体を冷やしながら急いで動物病院へ

体温が下がり見た目が平常に戻っても、体内でダメージを受けている可能性もあります
 必ず動物病院で診察を受けるようにしましょう



体調管理も予防のひとつです。飼い主さんが気にかけてあげることで熱中症を防ぐことができます

今年の夏も元気に乗り切りましょう！！



